

水稻育苗箱を用いた ミズナ、リーフレタス等の簡易養液栽培

水稻の育苗ハウスや育苗箱は、3月から5月の水稻育苗期間の他は使用されない場合が多く、その有効利用が望まれます。しかし、水稻育苗作業を効率化させる目的でハウス内土壌が固く締められている場合が多く、そのままでは野菜栽培に適しません。そこで、宮城県農業・園芸総合研究所ではハウスの土壌を使用せず、水稻用育苗箱も活用したミズナやリーフレタス等の各種葉菜類の簡易養液栽培を開発しましたので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. ハウス内にビニールマルチを敷いた後に、水稻用の育苗箱を並べ培土を充填します。かん水チューブを1箱につき1～2本配置し、播種または定植を行います。水中ポンプと電磁弁をタイマーで制御し、肥料を溶かした養液（EC1.2～2.6d s/m）をかん水チューブに通水し栽培します（写真、図1）。
2. 給液量や1日当たりのかん水回数は生育をみながら調整します。ミズナは2条播きでも3条播きでも育苗箱当たりの収量は同等となることから、2条播きで株間7～8cm、種子2～3粒を直播きします。リーフレタスはあらかじめ9月下旬にセルトレイに播種し、10月中旬に育苗箱あたり3～4株を千鳥で定植します（図2）。



写真 ミズナの栽培状況

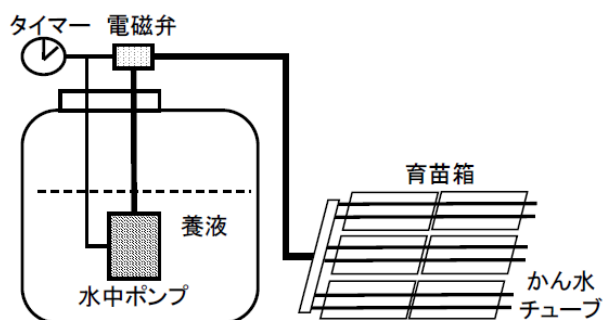


図1 簡易養液栽培装置の概要

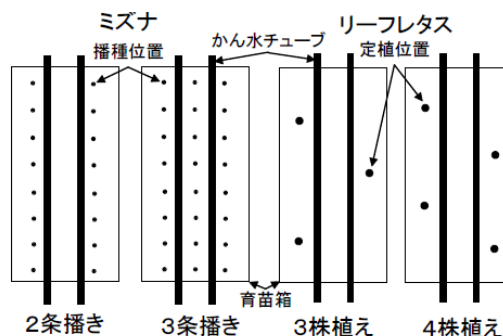


図2 葉菜類の播種・定植様式

☆ 活用面での留意点

1. 害虫等の侵入を軽減するためにハウスのサイド、入り口等に防虫ネットを設置します。
2. ミズナは、気温が25℃以上では葉が徒長し、高温・過湿により軟腐病が多発しやすいので、春まき、晩夏から秋まきが適しています。また、他の葉菜類より十分な水を必要ですので、ミズナのための給液系統で栽培します。
3. 適正施肥量や1日当たりにかん水回数の検討等、現在も試験検討中です。
4. 詳しいことは、宮城県農業・園芸総合研究所(TEL:022-383-8135)へお問い合わせ下さい。

(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 吉岡 宏)